



第38回日本アフェリシス学会学術大会

38th Annual Meeting of the Japanese Society for Apheresis

ランチョンセミナー 6

敗血症患者の 予後改善のために

～ Cold shock への対応と血液浄化療法～

日時
会場

2017年10月21日(土) 12:30～13:20

第2会場 東京ディズニーシー・ホテルミラコスタ® 2F「パラディーズ」
〒279-8519 千葉県浦安市舞浜 1-13



後藤 孝治 先生

座
長

大分大学医学部麻酔科学講座
大分大学医学部附属病院 集中治療部 診療教授
大分大学医学部附属病院 高度救命救急センター
副センター長

関野 元裕 先生

演
者

長崎大学病院 集中治療部 副部長/講師

共催:第38回日本アフェリシス学会学術大会 / ニプロ株式会社

敗血症患者の 予後改善のために

～ Cold shock への対応と血液浄化療法～

関野 元裕 先生 長崎大学病院 集中治療部 副部長/講師

敗血症の死亡率は、医療の進歩に伴い年々低下していると報告されている。実感としても ICU に入室する敗血症性ショック患者のうち、短期間で死に至る症例はこの 10 年間で激減した。特に発症早期の四肢末梢が温暖な Warm shock と呼ばれる病態は、感染症治療に加え輸液負荷やノルアドレナリン投与など、ガイドラインに準じた循環管理を適切に行えばその大部分を救命できる。一方、発症から時間が経過した四肢末梢の冷たい Cold shock の予後は依然不良である。Warm shock と Cold shock では病態および循環動態が大きく変化しているにも関わらず、個別の対応はガイドラインに明記されていない。

敗血症性ショック患者は何不全で亡くなるのか？フランスからの報告では、多臓器不全と腸管虚血が主要な死因の一つとして挙げられている。また、多臓器不全は腸管の血流異常が引き金となるとされており、特に小腸は “the motor of critical illness” とも称されている。Cold shock 患者の腸管血流の評価は通常困難であるが、低灌流状態にあることは想像に難くない。その Cold shock 患者にノルアドレナリンやバソプレシンなど、腸管血流を更に低下させる可能性がある薬剤を投与することは合理的なのだろうか？腸管血流を維持・回復させることが、予後改善に繋がるのではないだろうか？

本ランチョンセミナーでは、自施設のデータを提示しながら Cold shock に陥った患者をどう救命に繋げていくのか、腸管血流を念頭に置いた循環管理に加え、急性血液浄化療法の役割や我々の施設での工夫について述べてみたい。